

平成20年度 学校自己評価シート（盈進学園 東野高等学校）

目指す学校像 (教育目標)	日本国憲法、教育基本法の精神をふまえ、次の人間教育を目標とする。 1.自主性を持ち、責任を重んじる人 2.勤労を愛する、まじめな人 3.個人の尊厳を重んじ、命を大切にすること 4.すべての暴力、非人間的行為を排し、平和を求める人 5.いかなる困難にも耐え、真理を求め生き抜く人
------------------	---

本年度の目標	「授業規律・生活規律」確立のための指導を実施し、自己の達成度と次年度に向けた改善・取り組み
--------	---

評価基準(達成度) A(よく当てはまる) B(当てはまる) C(あまり当てはまらない) D(全く当てはまらない)

◎教育活動の活性化

(平成20年度は平成19年度から引継ぎクラス運営について点検し評価し改善する。)

1学期の評価項目・評価	A	B	C	D	その他	計 32人
1 授業開始時には号令を かけさせたか	19人	8人	3人	0人	0人	30人
2 靴が下駄箱にしまっ てある状態で授業を行 えたか	10人	16人	3人	2人	0人	31人
3 遅刻生徒への対応は 的確にできたか	21人	10人	0人	0人	0人	31人
4 授業に必要なものは 机上に置かせないで 授業を行えたか	13人	16人	2人	0人	0人	31人
5 生徒の服装や染髪に ついて意識し、声をか けることができたか	10人	19人	2人	0人	0人	31人
6 放課後の教室は整備 されていたか	16人	9人	1人	0人	0人	26人

総評・改善等
授業開始時のけじめとしてほぼ良好である。一部出来ていない状況もあるが習慣化を徹底する。
クラスにより状況が違うようである。担任指導、授業担当者との一層の協力が必要である。
今年度の学校全体での取り組みで実施している効果が表れている。早期の習慣化が期待できる。
教員により意識が違うようである。学校全体としての取り組みを検討する必要がある。
教員により意識が違うようである。学校全体としての取り組みを検討する必要がある。
生徒と教員の協力体制が同える。一層整備された清潔感のある教室を期待できる。

◎授業に集中する環境をつくる。

(1学期の結果をふまえ2学期の課題設定をする。)

2学期の評価項目・評価	A	B	C	D	その他	計 32人
1 授業開始時には号令を かけさせたか	19人	8人	1人	0人	4人	32人
2 授業に必要なものは 机上に置かせないで 授業を行えたか	12人	18人	1人	0人	0人	31人
3 放課後の教室は整備 されていたか	16人	9人	0人	0人	0人	25人

総評・改善等
授業開始時のけじめとしてほぼ良好である。生徒が授業に向かわせる方法として→{教員が号令をかける(3人)、生徒への声かけと携帯電話回収のために省いている(1人)との回答あり}
教員により意識が違うようである。学校全体としての取り組みを検討する必要がある。
生徒と教員の協力体制が同える。より多くの生徒が進んで出来るよう徹底する。

◎「授業規律・生活規律」の確立

(年間の自己達成度と次年度に向けた課題の確認)

3学期の評価項目・評価	A	B	C	D	その他	計 32人
1 授業開始時には号令を かけさせたか	19人	9人	0人	0人	2人	30人
2 靴が下駄箱にしまっ てある状態で授業を行 えたか	7人	17人	6人	0人	0人	30人
3 遅刻生徒への対応は 的確にできたか	16人	12人	2人	0人	0人	30人
4 授業に必要なものは 机上に置かせないで 授業を行えたか	10人	16人	4人	0人	0人	30人
5 生徒の服装や染髪に ついて意識し、声をか けることができたか	10人	18人	2人	0人	0人	30人
6 放課後の教室は整備 されていたか	15人	11人	0人	0人	0人	26人

総評・改善等
授業開始時のけじめとして良好である。次年度はチャイムと同時に号令がかかるような取り組みをしていく必要がある。
クラスにより状況が違うようである。担任としての習慣化させる指導と授業担当者として声を掛けていく指導を行い徹底させていくことが必要である。
生徒の意識も高まり、遅刻者自体が1年間で激減した。取り組みの成果が顕著に表れた。
教員により意識が違うようである。次年度は整理整頓の習慣化を徹底することを課題とし、取り組む必要がある。
教員により意識が違うようである。学校全体としての取り組みを検討する必要がある。
生徒と教員の協力体制が同える。生徒が学習環境を整える意識を持ち、進んで整頓できるような習慣化させる必要がある。

平成20年度 学校関係者評価シート（盈進学園 東野高等学校）

◎ 学校自己評価シート(関連諸資料を含む)に基づき年度を通じての学習指導・生徒指導のあり方について意見・講評を聴取

◎ 評価基準(達成度) A(よく当てはまる) B(当てはまる) C(あまり当てはまらない) D(全く当てはまらない)

年度の評価項目	A	B	C	D	その他	年度評価
1 授業開始時には号令を かけさせたか	62%	27%	4%	0%	7%	A
2 靴が下駄箱にしまっ てある状態で授業を行 えたか	28%	55%	11%	2%	0%	B
3 遅刻生徒への対応は 的確にできたか	61%	36%	2%	0%	0%	A
4 授業に必要なものは 机上に置かせないで 授業を行えたか	38%	52%	10%	0%	0%	B
5 生徒の服装や染髪に ついて意識し、声をか けることができたか	33%	61%	7%	0%	0%	B
6 放課後の教室は整備 されていたか	61%	38%	1%	0%	0%	A

実施日:平成21年3月21日(学識経験者評議員)
授業集中に向けて重要である。一層徹底されたい。
良好な整備環境にある教室であるが、物の整備の点で改善がなされることで、一層の授業環境が改善される。
遅刻の指導体制は学校として徹底した成果が見られる。
教員間での共通認識を明確にし、生徒指導部の設置は重要である。
教員間での共通認識を明確にし、生徒指導部の設置は重要である。
実際の教室を見ても良好な整備状況である。東野高校の特徴である木造校舎は教育環境として最適である。